



新規にホームページを制作し公開しました <https://chiyoda-gojome.net/>

ちよだ五城目交流館は制作中であった念願のホームページを2月26日付で公開しました。宿泊のお申込みや施設のご利用・お問い合わせ等はホームページで承ります。どうぞご活用ください。

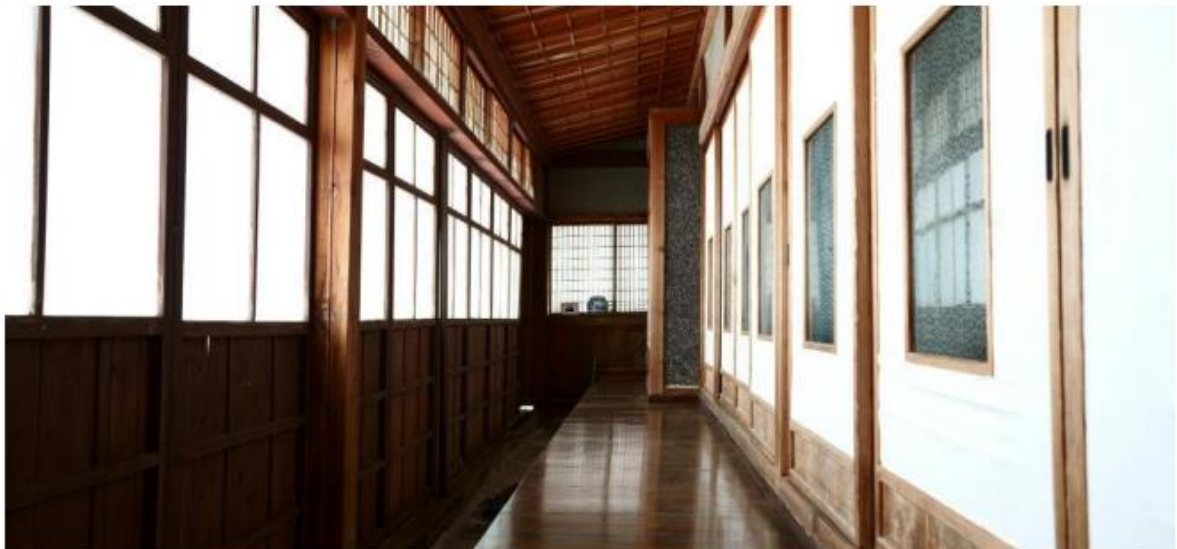
トップページには「お知らせコーナー」があり、五城目町の四季折々の様子やイベント情報、観光情報等を掲載してまいります。本年1月に発足した「もっと森山をもりあげ隊（通称：森山ネット3も隊）」の事務局も置いて頂いていることから、町のシンボル森山に関する様々な情報も発信してまいります。会報かけはしや広報パンフレットそしてフェースブックも張り付けています。その他、町の朝市ライブカメラ・五城目移住宣言等もリンクしています。朝市通りの農家民宿&交流カフェの「ちよだ五城目交流館」に皆さまの御出を心からお待ちしております。（代表記）

姉妹都市
ちよだ五城目交流館

宿泊予約はこちら
☎018-852-2023

施設のご案内 宿泊利用案内 観光・体験紹介 団体・活動紹介 お問い合わせ

朝市通りに面した築100年以上の建物を改修。カフェ利用、イベント、宿泊利用と多様な使い方を可能にして皆様の憩いの場・交流の場として地域に開いています。



編集・発行 姉妹都市ちよだ五城目交流館 代表 小林敏夫 秋田県五城目町下夕町19-0番地
電話018-852-2023 090-1619-2114 3115830901@jcom.home.ne.jp 携帯 minanaro3776@docomo.ne.jp

もっと森山をもりあげ隊(森山ネット3も隊)設立総会

(代表記)



五城目町のシンボル森山の登山道整備や景観保全活動等により町内外に森山の魅力を発信し地域の活性化を図ることを目的に立ち上げた「もっと森山をもりあげ隊」(略称: 森山ネット3も隊)は、1月16日午後2時から「ちよだ五城目交流館」で設立総会を開催しました。総会には20名が出席しふるさと会の高澤博彦会長はリモートで参加しました。発起人の工藤兼雄美さん(秋田県自然観察指導員協議会事務局長:町内在住)の趣旨説明・活動経過報告の後、規約・活動計画・予算の各案について審議し承認されました。



本年度は毎月第一土曜日を「森山定期登山日」とし参加者の安全登山と自然観察会を実施する他、登山コースのやぶ払い、枝打ち、下刈り、草刈りや熊よけ器具や休憩用丸太ベンチの設置等、森山愛好者、登山グループ、森林組合、町等の諸団体が連携しながら整備を実践していくこととしました。役員選出では代表に工藤兼雄美さん、副代表に高澤博彦さんと荒川滋さん、事務局長に齊藤大蔵さんが選ばれました。

3も隊:第1回定期登山報告

(代表記)

4月3日(日)五城目町・大瀧村を始め男鹿市や県南の羽後町など大学生から80代まで35名が参加し初めての森山定期登山が開催されました。午前9時に五城目城下駐車場に集合し、受付ののち登山経路図、お茶やお菓子、軍手等を受領し開会。工藤代表の開会宣言、荒川滋副代表の挨拶、登山日程説明の後、同30分に登山に出発しました。事務局では万が一の怪我等のため最終解散地まで救急箱を携行しましたが使用することはありませんでした。登山の途中には工藤代表が講師となり周辺に生息する植物や希少生物の説明を行い観察しながら登山を続けました。午前11時30分に予定通り第二高地へ到着となりました。周囲の景観を楽しみ記念撮影の後、自由解散となりました。ここから希望者は第一高地へ向け登山に出発しました。この区間は急な坂等が続き高齢者や急坂不慣れな方には険しい地形となりますが、誰もが第一高地まで登山ができるコース作りが今後の課題となります。もっと森山をもりあげ隊はこの課題解消に努め頑張っていかなければならないと思っています。



3も隊: 県立五城目高校全校生徒森山登山を後方支援

クマ出没等のため中止が続いていた県立五城目高校伝統の森山登山が復活しました。4月30日、出発前に体育館で出発式を行った後、3も隊14名が登山道の延べ18地点でクマよけの号鐘を打ち鳴らしたり落石の注意を促す等の見守りに立ちました。180数名の生徒全員が悪天候にも係わらず全員登頂、無事下山することができました。曇りの予報が前日は雨に変わるなど悩ましい天候でしたが、何はともあれ行事の復活に少しでもお役に立つことができたものと満足感の3も隊でした。晴天の頂上で昼食を囲むことはできませんでしたが、青春の1ページに深く刻まれることと思いました。

(代表記)



岡本登山道入口で先頭集団の男子生徒



雲海の中を頑張った



第二高地直前：アド少シダ



第二高地到着後は希望の鐘をゴーン



3も隊支援員の皆さん

令和3年度 ごじょうめ朝市plus+ スタート!

4月25日(日)五城目朝市plus+がスタートしました。開催時間前は雨がぱらついていましたがスタート時はお日様も顔を出し時間の経過と共に人出も増え大賑わいとなりました。本年度の開催は、5/15. 5/30. 6/20. 6/27. 7/25. 8/15. 8/22. 9/5. 9/12. 10/10. 10/17. 11/7. 2/20の予定です。機会を作りぜひ昔ながらの券囲気を味わってみては如何でしょうか。

(代表記)



朝市通りの人出



交流館前



交流館前

都内女子大生4名が地方学習で五城目に長期滞在！

東京都三鷹市に本部がある国際基督教大学に在籍する女子大生4名は、3月から4月上旬にかけて約1ヶ月間、地方学習の一環で五城目町に滞在しました。3月20日の朝市開催日には当館に立ち寄られましたので懇談することができました。足がないようでしたので自転車2台をお貸しし、農業体験の希望もありましたので、3月22日午前中には農事組合法人「山ゆり」で稲の種の消毒作業やハウス内のほうれん草の収穫や出荷準備作業を体験されました。また4月3日には森山の第1回定期登山に参加されました。交流館では活性化のヒントが生まれるべく滞在中の感想等をお聞かせ頂ければとお願いしましたところ快諾下さいましたので、ここにご紹介させていただきます。（代表記）



ちよだ五城目交流館事務室にて



農業体験（収穫作業）

国際基督教大学 2年 鈴木りゆか

この度は、このようなご時世の中、また年度を跨ぐ皆さまのお忙しい時期に、東京から訪れた私たちを温かく迎え入れて下さいましたこと、感謝申し上げます。

数年前に、県内に訪問したことはあるものの、秋田市内や男鹿半島での観光に留まり、五城目町を訪問したことはありませんでした。自身が在学している大学と、一般社団法人ドチャベンジャーズ様が提携を締結しているとのことで、ご縁が重なり、訪れた場所ではありましたが、私にとって一つひとつの経験が、何にも変え難い、非常に価値のあるものであったように感じます。五城目町で目の当たりにした、長閑な暮らし方や、地域への愛や誇りをもって暮らす町の方々、「今」を大切にする姿勢、自己との向き合い方などなど、大学生の間に、五城目町のような人間味に溢れたあたたかい環境に自身の身を置くことができたことは、己の硬直した考え方を解することができる絶好な機会であったように感じます。五城目町には、「また戻っておいで」と言ってくださる方が多くいらっしゃり、自身にとって第二の故郷ができたような、そんな気持ちで、とても嬉しく思います。

東京に帰宅してから、もうすぐで1ヶ月が経過しようとしています。忙しなく過ぎていく生活の中で、五城目

町の美しい自然や、町の皆さまのことをふと思い出します。その背景には、都会での自身の生活と五城目町での生活がまるで異なることが理由にあるように感じます。五城目町で感じたことなど、記録として残しておきたいことは数え切れない程ありますが、以下では、上述した五城目町に暮らす皆さまの「今」を大切にする姿勢について感じたことを記載しようと思います。

帰宅後の自身への気付きは、床についた時に発する第一声の違いです。振り返ると、五城目町では、毎晩「あー、今日も良い日だった。」と発し、眠りについていました。一方、都会での生活では「はぁ、今日も疲れた。」と発し、毎晩眠りにつくのです。体力的な運動量は然程変わらないはずであるのに、何がそんなにも異なるのか、それは精神的な充足感に大きな違いがあるのではないかと推測します。東京生まれ東京育ち、インターネットの普及と共に成長した私にとって、五城目町に暮らす方々の周囲の人びととの付き合い方は、非常に新鮮なものでした。お店を通り過ぎる際に、互いに会釈をしたり、日々の出来事の共有をしてお店を訪問し、長時間互いに話したり、五城目町の方々は「目の前にいる他者との『時間』や『空間』」を大切にしているように感じました。ある日突然、東京からやって来た見知らぬ私たちを「よぐ来たな」と歓迎し、胸の内を明かすと、時間に縛られることなく親身になって話を聞いて下さり、激励して下さる方もいらっしゃいました。今、目の前にいる相手と「今」各々が心の内に抱く感情や想いを共有すること。そして、他者や自己の感情や思考を放棄せず、しっかりと対峙すること。五城目町の方々が当たり前にされていたことを自分がきちんと出来ているか、考えさせられました。実は、五城目町の皆さまと対話をしているようで、自身が全身で自己と向き合っていたのではないかと回想します。

五城目町では、想像もし得なかった秋田の美しい一側面を目の当たりにし、五城目町抜きに秋田について語ることはできないと、今強く思います。いつか必ず五城目町に訪問し、町に流れる馬場目川や森山を見て、自然の無常観を全身で感じ、お変わりない皆さまにお会いできますことを今からとても楽しみにしております。コロナ禍で、先行きの見えない日々が続きますが、皆さま、何卒ご自愛くださいませ。改めまして、1ヶ月間本当にありがとうございました。

国際基督教大学 3年 横溝優希

この度は、このように私達が五城目町で過ごした感想を綴る機会を下さり、誠にありがとうございます。思い出をゆっくり振り返りながら書いていこうと思います。

長かった2020年がやっと終わり新年が動き始めた頃、私は「今年こそは何か新しいことに挑戦したい」という気持ちからこのサービス・ラーニング実習というプログラムに応募しました。当初は全く違う地に行く予定だったのですが、なかなか上手く事が進まず困っていた時に、ありがたいことにこちらに受け入れて頂くことになりました。この機会に恵まれるまで、恥ずかしながら秋田県に来たこともなければ五城目町のことも全く知りませんでした。さらに私は東京での生活以外ほとんど経験がないため、この町で過ごしている自分が全く想像できませんでした。私と一緒に参加したメンバーとも同じ大学でありながら今までご縁がなかったため、完全に初めましての仲間達と初めましての町に行くことに、緊張と不安、でもそれ以上に楽しみでいっぱいでした。

五城目町に到着した日、見渡すかぎり田んぼの開けた景色、すぐ近くに緑を感じる香り、音の静けさ、顔を刺すような寒さに、新鮮さと非日常感を味わいました。滞在し始めてから徐々に住民の方とお話するようになると、私と近い繋がりがある方がいらっしゃったり親近感を感じる方々に出会い、段々と「偶然ここに来たつもりだったけれど、何かに引き寄せられて来たのかな」と感じるようになりました。こうして日々人との関わりを繰り返すうちに、名前も知らなかったこの町が私にとってなんだかとても居心地の良い場所になっていました。最初は

人通りの少なさを感じながらただ歩くだけだった朝市通りが、お世話になっている方とばったり遭遇したり「今日はいらっしゃるかな」と外からお店の中をちらっと覗いてみたり、「今日も会いに行こう」とわくわくしながら小走りする通りになっていました。

過ごす環境が変わると、私が知らなかった自分に気付くこともありました。例えばこれまでの私は緑が少ない環境で暮らすことが当たり前すぎて、自然が近くにあることの魅力を全く分かっていませんでした。しかし五城目町で過ごしているうちに、外に出る度に空を見上げるのが習慣になっていき、太陽の温かさや季節の移り変わりを感じて嬉しくなったり、ちょっと息抜きに緑のある方へ散歩するようになっていました。自然はこんなにも私の心を落ち着けて前向きにしてくれるのだなと驚きました。ゆったりとした時間の中にと心に余裕が生まれて、些細なことでも嬉しい気持ちで満たされたり、心がときめく瞬間が増えていきました。今まで私は目まぐるしく過ぎる時間の流れや目から耳から果てしなく入ってくる情報に溺れていて、自分の内から立ち現れるプラス・マイナスどちらの感情も真摯に受け入れていく余裕がありませんでした。無理やり塞いで我慢してばかりだった私の心を、ここに来てようやく休めて自由にできたように感じました。そのうちに「私ってこういう人でもあるらしい、これが好きらしい」と、これまで曇っていた部分がほんの僅かに見えてきたように思います。

他にもここには書ききれないほどの学びが沢山ありました。授業実習という形での滞在でしたが、私にとってはその枠を超えた発見が得られた、本当に貴重な1か月でした。まだ私も誰も知らない『私』を長年覆い隠していた何かが、ようやく私の力で破られ始めたような、そんな時間でした。この五城目町での経験で頂いた学びを噛みしめながら、これからも『私』を探すためにその何かを開き続けたいと思います。本当にありがとうございました。

国際基督教大学 3年 小泉明日香

五城目町で過ごした一か月間は、多くの素敵な出会いに恵まれ、また実際に行かなければできなかった貴重な経験から多くの学びを得ることができました。

様々な方とのお話や五城目町での日々の生活を通して、私が特に感じたのが「自分自身と向き合う大切さ」でした。ゆったりとした時間が流れる五城目町は、慌ただしく時間に追われていた東京の生活とは対照的で、これまでの自分を振り返ったり、自分の感情と向き合う時間が多くありました。そして、東京では時間の流れる速さに身を任せ見逃していた、小さな喜びや幸せにも気づくことが多くなりました。

五城目町で過ごしていると、地元の方から頂き物をする事が多く、東京から突然やってきた私たちを温かく受け入れてくれる地元の方々の優しさに、胸が一杯になる体験が何度もありました。そんな目の前にいる人との時間を大切にしながら、相手と接している地元の方の姿を見ているうちに、ゆとりのある時間が自分自身のゆとりを生み、それが目の前にいる相手を大切にすることにつながっているのだと気づきました。またお話を聞く中で、五城目町では、“偶然から”始まる出来事が沢山起こっている印象を受けました。これも日々の生活に余白があることが、偶然に気づきやすい環境を作っているのだと感じました。自分自身と向き合う時間が、周囲への優しさや、物事を見る視点の広がりにもつながることを知り、心のゆとりを自分の中に持つことを大切にしたいと思うようになりました。さらに、五城目町には、生活そのものを楽しんでいる方々が多くいて、お金では得られないような言葉や思いのやり取りを私自身何度も体験することができました。お金やサービスに縛られてしまう東京での暮らしから離れたことで、そうではない新たな生き方を知れたような気がしています。

東京に帰ってからも、実際に体験したからこそ、五城目町で感じた思いや、広く澄んだ空、時間の流れなどをふとした瞬間に思い出すことが多くあります。この一か月間でつながることのできたご縁をこれからも大切に、またいつか訪れたいと思っています。

最後になりますが、東京から来た私たち4人を温かく受け入れ、様々な学びを得る機会を作ってくださった五城目町の皆さまに心より感謝申し上げます。

国際基督教大学 3年 北村陽奈



ほうれん草出荷作業

五城目町でお世話になったみなさま、

この度は、このようなご時世またお忙しい時期にも関わらず、東京から訪れた私たちを暖かく迎え入れてくださったことを誠に感謝致します。

大学の授業の一環として、ドチャベンジャーズ様の元で五城目町に3月から4月初旬の一月間滞在させて頂きました。滞在期間中は、五城目町に住むさまざまな方と対話をし、五城目町とはどんな町かを自分で感じとる、という活動内容の元、五城目町中を探索していました。人口が多く、人が慌ただしく過ごす東京から来た私たちにとって、五城目町での生活は、非常に新鮮で心にゆとりを持った瞬間を過ごしていたと実感しています。とはいえ、私は地元が北海道なので、五城目町の生活に懐かしさを覚えました。

本当にたくさんの方と関わりお話しをしたのですが、一月間で感じ取ったこととして、五城目町に住む方は、自身の個性を生かした自由な生活をしているように思えました。もちろん、五城目町に住む全住民の方とはお会いしていませんが、日々の生活、「もりやまを盛り上げ隊」への参加やもりやまこども園の見学など通じて、お年寄りの方から子供たちまで、誰しものが何かの特技・趣味を持ち、それらは一つ一つ、たくさんの個性に埋もれることなく煌々として、とても素敵でした。個人的に印象深かった方は、家庭菜園で多くの作物を育て、燻製機を自分で作り（薫製ベーコンを頂きましたがほったが落ちるほどの美味しさでした！）、博識で、どんな話題でも興味深い知識で話を展開していきました。

ある日、その方が食費はあまりかかっていないと話されていたので理由を聞くと、「ないなら自分で作る、自分で作る楽しいよ」と答えていました。それまで、何かが無い、あるいは壊れたとなれば、購入するという選択肢が大部分を占めていた私ですが、ないなら代わりのもを探し、自分で作るという発想を大切にしたいと、その時に強く感じました。なぜなら、都会のようなモノ・ヒト・カネが溢れるほどある場所で今を暮らす私は「自分です」という感覚が次第に薄れている、ということに気づいたからです。自分でつくったものをより愛おしく思えるという感覚は、これから生きていく上で忘れてはならないと、五城目町に来て痛感させられました。

最初に、五城目町に来た時に懐かしさを感じたと記述しました。北海道と秋田県、地形や気候が少し違いはあれど似ているだろうと思っていましたが、過ごしていくと北海道では見ない景色、生き物、植物に出会い、また秋田弁と北海道弁は全く違いました。北海道と秋田県、距離はそう遠くないのになぜ・・・?!と何度思ったことでしょうか。しかし、そんな日常が私にとっても目新しく刺激的でした。秋田弁に関しては、私が聞き取れず困った顔をしているのが伝わったのか、話し手の方から私に合わせて会話をしてくれることが多く、バイリンガルだなあ・・・といつも羨ましく思っていました。

このように、毎日刺激的である一方、人の暖かさに触れ、五城目町の魅力を発見し心に余裕を持った日々を過ごさせて頂きました。

最後になりますが、滞在期間中に会った皆さま、いつもご親切に接して下さり、本当にありがとうございました。一月という長いようで短い期間、また3月だったこともあり、暖かい時期に向けて人も生物も準備している時期でしたが、そんな一月でも数えきれない思い出ができました。また五城目町を訪れる機会があれば、その時もまた、みなさまの町を心ゆくまで満喫させていただきたいです。

～ 熱い心に NUMBER 1 ～

○二刀流：大谷翔平 米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平はホワイトソックス戦に2番・投手で先



発出場しメジャー4年目で初めて投打同時出場した。打者で1回に先制の2号本塁打を打ち、投手では4回途中まで2安打自責点1、7三振5四球で三塁を踏ませなかった。118年ぶりの二刀流は選手・観客から絶賛されました。怪我から復活したスーパーヒーローに期待と拍手！

○競泳：池江璃花子 白血病から復調し4月の日本選手権で、出場した4種目全てで優勝。「負けるのは今年が最後」と強い決意で出場し2種目の五輪切符を含む4冠を果たした。



昨夏の病後初めての大会に出場した時のやせ細った体からは想像もできない奇跡の復活。レース後のインタビューではあふれる涙と震える声で「努力は必ず報われる」と応えました。辛かった闘病生活を耐えた結果の栄冠。世界へ羽ばたけ！

○ゴルフ：松山秀樹 挑戦10度目のマスターズ・トーナメントで史上初となる日本男子の優勝。



アジア選手としても初の快挙で日本ゴルフ界の悲願が達成された。賞金2億2700万円、終身大会出場権取得。現地からの中継は感動や興奮、拍手や感嘆の空気が伝わり、TVの解説者・アナウンサーは感極まった声で放送しており歴史的瞬間を視聴！ たくさんの勇気を与えたマスターズ。エールを送りたい。

* 令和3年度年会費納入のお願い・新会員の募集 *

本館は皆様の年会費等で運営されている民間交流宿泊施設です。また、新会員は常時募集しています。受付は4月1日から翌3月31日です。

年会費は、次の「三つのコース」の中からお選びください。

◎Aコース 2,000円 ◎Bコース 5,000円 (年一回姉妹都市の特産品をお届けします。)

◎Sコース 10,000円 (年二回姉妹都市の特産品をお届けします。)

また、入会をご希望される皆様には「郵便局備付：払込取扱票」に

◎口座記号・番号欄 02280-7-139343 ◎金額欄 上記の希望するコースの金額

◎加入者名欄 「ちよだ五城目交流館」と、記入のうえお振込を賜りますようお願い申し上げます。

* 宿泊や会合等に皆様のご利用をお待ちしております *

◎宿泊利用 お一人様大人(中学生以上)は素泊まり3,000円(税込)会員は2,500円(税込) 幼児は無料で自炊も出来ます。

◎施設利用 会合等：お一人200円 宴会：お一人500円(11月～3月：暖房費100円増し)

◆お申込み・お問合せ ホームページ【<https://chiyoda-gojome.net/>】または代表まで、どうぞ

姉妹都市ちよだ五城目交流館 代表 小林敏夫 〒300-0845 茨城県土浦市乙戸南1-19-22

◎交流館加入電話 018-852-2023 (不在転送付-代表)

◎加入・FAX 029-842-9496 ◎携帯 090-1619-2114

◎メール 携帯 minanaro3776@docomo.ne.jp ◎PC 3115830901@jcom.home.ne.jp